

**第38回東京都小・中学校新聞コンクール  
学習新聞の部 最優秀賞・毎日新聞社賞**  
作品名「東日本復興壁新聞」 青井中学校 2・3年生  
新聞係

新聞係を中心に15人が集まり、丸山明美先生との「東日本復興壁新聞」の作成が始まりました。3年生向井博亮さんは、宮城県石巻市に叔父さんが住んでいることもあって、自ら石巻市に行き、現地の生徒から直接話を聞いた写真も撮らせてもらったりしたという。「ここまですごいとは思わなかった。全て包み隠さず伝えられた」と向井さんは言う。テレビなどではわからない、生の声を集めた「復興壁新聞」は、27団体2千528作品の最優秀賞、毎日新聞社賞に輝いた。

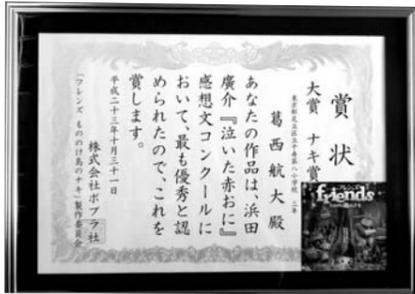
「東京では現実感がなく、遠い世界のもののように感じている人もいる。東北の人たちと寄り添って生きなければならぬことを学ばせたかった」という丸山先生の想いは、生徒たちに届き、周りからの評価にもつながった。「復興壁新聞」は、4・5月は毎週、6月以降は月に1号のペースで発行し、全部で16号発行している。3年生佐藤由菜さんは「多くの人に見てほしい。生徒だけでなく、学校に来た人たちにも見てもらいたい」と言う。



**浜田廣介「泣いた赤おに」  
感想文コンクール 大賞ナキ賞、**  
千寿第八小学校3年生 葛西 航大さん

「赤おにになりきって書きました。」  
児童文学「泣いた赤おに」の感想文コンクールで、全国の小・中学生から集まった3千115作品の大賞ナキ賞に選ばれた、葛西さんの一言。自分が主人公の赤おにになりきり、友だちの青おにへ送る手紙を書きあげた。

本を読むことが好きで、学校の図書室で週に10冊は読むという。「将来は宇宙飛行士になりたい」という夢に向かって、今は宇宙飛行士関係の本も読んでいます。葛西さんは、今回の感想文コンクール以外にも、モラル川柳やエッセイなどのコンクールにも入賞している。佐藤一校長先生をはじめ、学校の先生方も「とても優秀で何でもできる子」と口を揃える。葛西さんのこれからのさまざまな場面での活躍に注目していく。



青おにくんへ。  
村人たちとなかよくくらしたいけれど、村人には、きみとのことを話すことに決めました。村人は本当のことを聞いたら、おこってほくの家に遊びに来なくなるでしょう。毎日、おもしろいことや、おかしなことはなくなるでしょう。にこにこすることもなくなるでしょう。でもほくは気づきました。きみからの手紙を何回も読んで、きみがほくのことを大事に思ってくれたことを。ほくにとても大事な幸せはきみとずっと友だちでいることです。うそをついてまで、村人ににこにこしなから友だちでいてください。  
きみとはいつまでも友だちでいたい。きみが村であはれた時、わざとはしらにぶつけたひたいのけがはもうなおりましたか。ほくはきみがいなくなってしまう、心にけがをしてしまいました。だから、きみには今すぐにもどってほしい。  
きみといっしょにごはんを食べたり、遊んだりしたいんだ。いつまでもきみの友だち赤おに。ほくは、青おにの手紙を読んで、赤おにがこのような手紙を書いたと思います。ほくはやさしくするということは、相手のことを大事に思うこと、うそをつかないことではないかと考えました。  
青おにはこの手紙を読んで、きつとすぐに赤おにの所へもどってきてほしい。村人には、うそをつかずに本当のことを話してくれた赤おにのやさしさとゆう気が気がついてほしいです。  
村人に本当のことを話したら、「うそだつたんじゃないか。」とおこい、村人は赤おにと友だちではなくなるかもしれない。でも青おににもどってきてほしいから村人にうそをつくわけにはいきません。そんな赤おにが一番心がやさしいと思います。赤おにには、たくさん友だちができることでしょう。



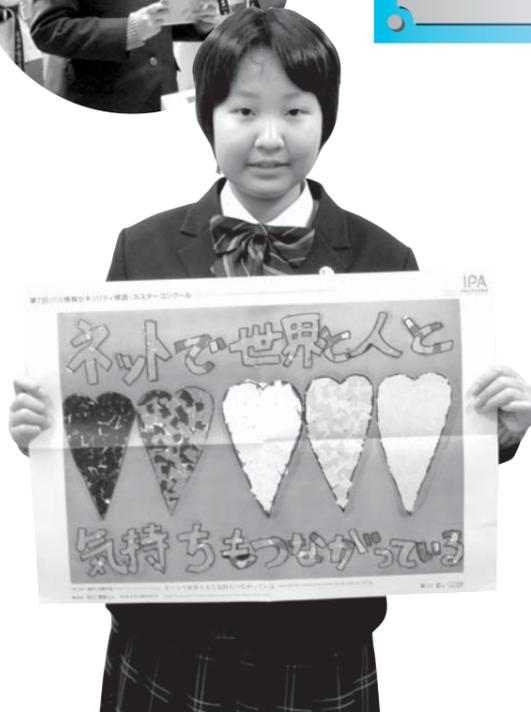
**第64回 東京都中学校英語学芸大会  
PLAY(英語劇)の部 優勝**  
第十二中学校 英語部



「全員のチームワークの良さ」と2人の3年生が後輩を引っ張っていつてくれたおかげで優勝できた」と語るのは、英語部顧問の神戸千恵先生。今までは他の部活から助っ人に来てもらい大会に参加していたが、今年は1年生が8人入部したので、13人全員で参加しようと決めたという。13人という少人数だからこそ生きたチームワークが、東京都大会優勝という結果につながった。神戸先生が、指導する際に大

事にしたことは、発声と表現力。声の大きさが足りず東京都大会出場を逃したことがあり、それ以来力を入れていたという。また、表現する力をつけるため、言葉を使わずに感情をあらわす練習も取り入れている。今までは後輩たちを引っ張って来た3年生も卒業し、新チームでの活動が始まる。多くの新1年生が入部し、また新しいチームワークが生まれ、英語部の活躍が続くことを期待する。

**第7回IPA情報セキュリティ標語・  
ポスターコンクール ポスター部門 大賞**  
興本扇学園7年生 井口 理紗さん



「情報セキュリティのポスター」と聞くと、守って、注意して、などと呼びかけてしまいがちだが、井口さんが考えたキャッチコピーは「ネットで世界と人と気持ちもつながっている」。

さらに「みんなの印象に残るようなものにした」と貼り絵で完成させた作品は、「やさしさと強さ、両方を併せ持つポスター」との評価を受け、全国から応募されたポスター部門950作品の大賞に輝いた。

6年生から生徒会に入り、現在は副会長を務める井口さんは、山崎要副校長先生は「明るくハキハキしていてこちらから何も言わなくても自分で考えて行動できる生徒」と評する。その2つが、2月に行われた平成23年度足立区教育委員会児童・生徒表彰式での受賞者代表あいさつ。先生は特に何も指示しなかったが、「感激でいっぱいです。一人ひとりの努力の成果はもちろんです」と先生・家族・友人の支えがあったと思えます。感謝の心を忘れずにこれからもがんばりたいです」と堂々たるもの。将来は、「人のためになる、人と関わっていきける職に就きたい」と語る井口さんの今後の活躍が楽しみです。